



2008. 12. 1 No. 47



## ごあいさつ

札幌組々長 藤田 憲昭

組内の皆様には平素より、札幌組へのご尽力に心より感謝申し上げます。

札幌組々長を拝命され、早、一年半になりましたが、無我夢中で過ごした期間でありました。その間、組基幹運動推進委員会の体制見直しをし、スリム化を図り、さらに見直された組費の初年度でもあり、様々な課題がありましたが、皆様のご協力をいただき、運営させていただいております。

来る平成23年には、親鸞聖人750回大遠忌法要が迫ってまいりましたが、各寺院、教区等でも「お待ち受け」の諸行事が計画されています。

札幌組におきましても、近々にこの大遠忌法要に向けて「何をすべきか」を皆様と共に考えてまいりたいと思っております。

混迷を深めていくこの時代にこそ、なお念仏のみ教えは光り輝きます。

この大遠忌法要が後々まで「よい法要だった」と、語り継がれるような形にしたいものです。

今年の4月より、差別ハガキ事件が続発しています。

悲しく、情けないことではありますが、私達はこのような差別文書に惑わされることなく、動揺せず、「決して差別は許さない」という思いを共有したいものであります。

今後とも、札幌組へのご協力を重ねて宜しくお願い申し上げます。

合 掌

## 平成20年度 札幌組基幹運動推進委員会組織図



会長 藤田 憲昭



副会長 佐藤 英見



副会長 高塚 浄正



副会長 横湯 誓之

### 新体制がスタートして

相談員 佐々木 光明



今年度より、札幌組基幹運動推進委員会の新体制がスタートいたしました。真宗寺院は村落共同体と家父長制度によってその基盤が強固に守られてきました。しかし、戦後の都市化の中でそれが崩壊しつつある現況を踏まえ、基幹運動を強力に推進することによりその危機を克服し、親鸞聖人のみ教えを現代社会に伝えていこうとするものです。

旧組織は、かつての教化推進協議会の組織を基幹運動にスライドしたものと聞いております。爾来、20有余年が過ぎ、体制が現代社会にそぐわなくなったとの判断から、抜本的な見直しをさせていただきました。新組織のポイントは旧来型の縦割り組織から、各局・各担当を横断的にしたことで、基推委員が他局の事業に参画できるようになったことです。また、一方的な伝道のあり方から、僧侶・門信徒がお互いに育て合う、双方向の運動推進をめざすことも必要な事です。組を挙げて基幹運動を推進し念仏をいただきながら、共に弘めてまいりましょう。

## 組織局



局長 藤井孝至

藤田善昭	野口宗英(副)	松本哲朗	藤原良樹
打本道彦	岡 紘雅	西井芳英	内平義和
原 宗法	藤沢教彰	竹沢一深	石堂了正
打本大志	佐々木恵真	坪井宗尚	宮川証法
西井房子	藤田宏徳	竹沢悦子	丸田宜史
	藤原訓子		

## 研修局



局長 出倉恵隆

藤井克行(副)	海野英爾	一瀬隆城	木村良麿	上山知現
柴田範尚	松本昇陽	海野祐爾	上守祐史	藤原健彦
竹沢信也	大江智紹	増田龍樹	西井正了	打本毅麿

## 伝道局



局長 長尾光洋

藤田幸範(副)	久朗津豊秀	寺内俊雄	上守祐善	上守正行
打本顕真	一瀬守城	熊本教昭	草薙恵真	久朗津泰秀
		青山直樹	上山知昭	篠 正弘

## 教 区 会

## 教区会議員挨拶

勝圓寺 竹田 和 雄

昨年の定期総会に於いて、教区会議員に選出され、北海道教区、札幌組の皆様と共に、微力では有りますが、その大役を勤めさせていただくこととなりました。

前任者の眞願寺役員の高間専造様よりアドバイスをうけ、僧侶議員の浄楽寺住職とともに活動させていただくようになって、一年半程、経過いたしました。

以前より、組の総代会の役員を務めさせていただき、札幌組の教化団体の活動に協力させていただいておりました。また、当別町の議員(現在は議長の職)を勤めており、その経験を活かせたらと機会あることに思っております。しかしながら、まだなかなか慣れず、一議員としての力不足を感じております。町村の議会運営のようにはいかないものと、不謹慎ではありますが、未だ勉強させていただいております。

教区における様々な問題、またこれからお迎える親鸞聖人750回大遠忌法要の取り組みなど、私のできる限り勤めさせていただきたく思っております。私のお寺も総代役員・婦人会と仲良く協力し合いながら、門徒の方々と護持発展に努めております。又、できるだけ法座にお参りするよう心がけております。組内の僧侶、門徒の皆様と共に、お力添えをいただきながら精進させていただきます。よろしく願いいたします。

合 掌



# 組基推委の動き

## 組織局

### 教区Aブロック門徒総代研修会

教区主催のAブロック門徒総代会が6月26、27日の2日間、函館の「花びし」ホテルで開催されました。札幌組からは総代16名、僧侶5名の計21名が参加しました。

講師は真宗大谷派解放運動推進本部委員 訓覇 浩氏。テーマは「仏心に愛しかるいのち抱きて～念仏者がハンセン病の現実から学ぶもの～」でありました。ハンセン病の療養者の実態をビデオ、写真を通して説明されました。又、療養内のみ通用する「お金」も実際に見せてもらい、ハンセン病療養者の生活の現実に強い衝撃を受け、これからの差別問題の課題を学習した総代研修会でありました。



### 札幌組仏教婦人会連盟 研修会

平成20年6月20日、札幌別院に於いて、札幌組仏教婦人会連盟総会、及び研修会が開催されました。参加者は170名。研修会では、藤井純恵氏をお招きし、「世の中安穏なれ～仏婦の役割とは～」というテーマでお話しいただきました。

親鸞聖人750回大遠忌のご消息を受けて、大変有意義な講演をいただき、心新たに仏教婦人の大切さを学ばせていただきました。



### 親鸞聖人750回大遠忌法要 お待ち受け事業

親鸞聖人750回大遠忌法要のお待ち受け事業として、6月6日、夜回り先生こと「水谷 修氏講演会」が開催されました。教区基推主催のもと、組基推も協力し「子どもたちとともにいのちかがやく世界へ」というテーマで講演をいただきました。あいにくの雨模様の日ではありましたが、会場満堂の中に、「私は閻の人間です」とはじまりました。生きることに戸惑う子どもたちに体を張って向きあい、生きる尊さを伝えてきたこととお話しいただきました。特に宗教に熱い期待をかけられました。

親鸞聖人750回大遠忌法要待ち受け事業

夜回り先生

## 水谷 修氏 講演会

子どもたちとともに  
いのちかがやく世界へ

**入場無料**

日時 2008年6月6日(金)  
開演 午後3時30分  
閉演 午後4時00分

会場 西本願寺札幌別院  
札幌市中央区南一条西1丁目11

(入場整理券は300名限定)

主催 札幌教区宗務局・宗務課・宗務部・宗務課・宗務課  
主幹 キョウサン 宗務課  
問合せ 宗務課 宗務課 宗務課 宗務課 宗務課

## 研修局

### 札幌組僧侶連続研修会



今年度より新しく組織された札幌組研修局に於いて、組内の僧侶、寺族、衆徒、法務員を対象に、年間5回の札幌組僧侶連続研修がはじまりました。7月22日、札幌別院教化センターに於いて変化する葬儀形態の様子を極楽堂中嶋浩盟氏を講師に迎え、「札幌近郊の最近の葬儀現状」のテーマのもとに第1回研修会が開催されました。現在、葬儀の運営は葬儀社に委託する場合がほとんどであり、その葬儀事情の資料をもとにお話をいただきました。参加者は35名。

10月19日、龍谷大学川治泰信教授を講師に迎え、「法然上人と親鸞聖人」のテーマのもとに開催されました。法然上人、親鸞聖人の師弟論について同行、同朋の立場から実存的な門弟観を通しての貴重な講義をいただきました。参加者は25名。今後は3回開催される予定。

## 伝道局

札幌組ホームページを開設して6年目になり、ホームページには、カレンダー法話、刊行書籍紹介、真宗クイズ、組内寺院紹介、寺院MAP、組報なごみ、組内連絡等が掲載されています。さらに、組基推組織が新しくなり、より多くの皆様にアクセスされるように企画しています。また、毎月の法語カレンダーの法話は、ホームページから簡単に印刷できます。大いに利用して下さい。



札幌組HP <http://www.onishi.or.jp>

## 「いのちと念仏」相談センターについて

浄土真宗の教義や仏事などに関する「教学相談」および対人間関係や家族の問題、精神的な不安などに関する「心の悩み相談」を本願寺教学伝道研究センターで受けています。詳しくは宗報に掲載されています。

■電話 075-371-5024 ■受付時間 ①教学相談/月～金 9:00～17:00 ②心の悩み相談/水 12:00～16:00

## 教区会報告

浄楽寺 木村良磨

### (1)教区歳計議書7件を承認

すでに教区時報(214号)で報じられていますが、7月17日の臨時教区会で平成19年度の財務関連7議案が承認されました。一般会計では、歳入合計9841万余円に対し歳出8231万余円。余剰金は1609万円余りで、事務・会議費などの歳出を抑えた緊縮型の予算執行とも言えますが、伝道教化・寺院振興費は予算に比し、82～83%台に留まっており、教区内の活動に停滞はなかったか、検証の必要性を感じます。

### (2)2008年差別ハガキ事件について

去る4月14日、計8通の差別ハガキが教区内寺院に投げられた事件について、6月19日の常備会で「事実確認書」をもとに概要が報告されました。前後して教区対応委員会が開かれていますが、詳細はまだ公表されていません。尚、札幌組が討議を重ねて成文化した、当該事件への「声明と要望」を教区内寺院に出状しましたが、教務所長は、対応委員会への足カセになると、受け取りを拒んでいます。さらに9月10日頃、教区内2組の寺院や住職宛てに、新たな差別ハガキが届いているようですが、この件について教務所からの正式なコメントはありません。

### (3)大遠忌法要委員会について

上記法要の常任委員会が7月24日開催され、教区の段階では、法要と行事の二つを柱に企画委員会を立ち上げ、それぞれ具体案を練っていくことが確認されました。特に行事部門では、プランナーにご門徒の参画を希望する声が多く聞かれました。「本願寺展」「前進座公演」も含めて綿密な準備が急がれます。

## 眞願寺親鸞聖人750回大遠忌、 開教125周年、寺号公称120周年慶讃大法要厳修

眞願寺は去る9月27日より3日間にわたり、親鸞聖人750回大遠忌、開教125周年、寺号公称120周年慶讃大法要を賑々しく修行されました。

初日は本願寺帰敬式に引き続き、開教時のご門主ゆかりの寺院であられる河内顕証寺住職近松照俊師をお迎えし、親鸞聖人750回大遠忌が修行されました。その後は「眞願寺寄席」で上方落語をお楽しみいただきました。

2日目は大勢の法中、稚児、門信徒による庭儀、開教125周年、寺号公称120周年慶讃大法要が厳修されました。

最終日の3日目は、平田大意開基住職をはじめ、歴代住職坊守の追悼、前住職二十三回忌、前々坊守三十三回忌、門信徒総追悼法要を安楽寺住職導師のもと、修行されました。

3日間とも本堂よりあふれる参詣者とともに、感涙の中でお念仏相続の勝縁を慶びました。



## 廣大寺 寺号公称20周年記念慶讃法要

去る10月4日(土)午後1時より「廣大寺寺号公称20周年記念慶讃法要」、引き続き午後2時より記念式典を修行いたしました。

秋晴れに恵まれ、付き合いご法中と札幌組第5ブロックのご法中17名のご出勤をいただき、満堂の中、朗々とした読経が響きわたり、ありがたいご勝縁に遇わせていただきました。

その後、新札幌シェラトンホテルにおいて午後4時より祝賀会を開催し、盛会のうちに閉会いたしました。

かえりみれば、昭和63年10月30日に大雨の中「本堂庫裡落成入仏慶讃法要」を修行し、平成元年3月24日に北海道知事より認証され、平成元年4月5日付で寺号公称の許可を本山より賜り、爾来20年の歩みがありました。この間平岡の地も新興住宅街としての円熟味を増し、人と緑と施設が融合した完成度の高い街となりました。

この街の歩みと共に、お念仏の道場として根ざし、お念仏繁昌のため精進努力していく覚悟です。これからもご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。



## おめでとうございます

宝流寺前任職 柴田 薫心師

## 旭日中綬章を受章

宝流寺柴田薫心前任職は永年にわたり地方自治、札幌市政に貢献された功績により、平成20年4月29日、旭日中綬章の叙勲の榮譽に浴されました。このことは、ご本人はもとより、関係各位の同慶のいたりであり、去る6月30日、パークホテルにおいて受章祝賀会が開催されました。組内寺院はもちろんのこと、高橋北海道知事をはじめ、上田札幌市長等、政界、経済界、後援会等大勢の関係各位参集の中に、盛会に開催されました。柴田様は平成12年藍綬褒章受章について2度目の受章であり、永年にわたるご尽力の賜ものと深く敬意を表するところでもあります。本当におめでとうございます。



## おめでとうございます

清勝寺住職 岡 紘雅師

## 藍綬褒章を受章

清勝寺岡 紘雅住職は長年にわたる更生保護活動を通じて、自立更生と犯罪予防にご尽力されてきたご功績により、平成19年11月、皇居において藍綬褒章の榮譽に浴されました。明けて1月15日、ルネッサンスホテルに於いて、組内第4ブロック有志が発起人になり、受章祝賀会を開催致しました。本人並びに一門の榮譽はもちろんですが、私どもひとしく喜びとするところでもあります。長年のご精進の賜ものと心からお祝いいたします。



## ご結婚おめでとうございます

高恩寺 増田 龍樹さん・裕子さん

お寺に戻って12年、「結婚はまだ？」と言われなくなってからご縁が巡ってまいりました。平成20年2月26日、證誓寺出倉恵隆住職に司婚の勞をおとりいただき、ご仏前にて結婚式を挙げさせていただきました。内々の挙式にさせていただきましたので、日頃お世話になっている組内の皆様にご案内が行き届かず申し訳ございません。

新婦の裕子は宮城県南部、丸森町から参りました。生まれも育ちも違う二人、相談しながら平凡な夫婦になっていこうと思います。ご教導よろしくお願いたします。



## 札幌正信会結成50周年

札幌組正信会は結成から50周年という節目の年を迎える事ができました。

これも皆様のひとかたならぬお力添えの賜と心よりお礼申し上げます。

去る7月10日、記念事業の一環として、「島田洋七氏講演会」をホテルモンレーエーデルホフにて開催致しましたところ、400名を超える方が足を運んで下さいました。

まずは正信会会員による「大喜利」、ついで「佐賀のがばいお念仏ばあちゃん」の講題で講演をいただきました。お念仏をよろこばれたおばあちゃんのお話に笑って泣いてまた笑って。講演後、多くの方から「とても楽しかった」と感想をいただくことができました。無事に終えさせていただきましたのも皆様のお陰と心より感謝申し上げます。



## わが寺のおとき

### 光國寺

報恩講 8月28日～30日

この地域はもともと農家が大半でしたが、時代の流れと共に専業農家は本当に少なくなりました。

毎年ご門徒の方々から採り立ての新鮮な野菜、ふきやわらびなどの山菜、つけ物等を提供して頂きますので、野菜類はすべて賄えます。当番の会員の皆さんと、今年の野菜の出来具合を話しながらいちいち献立を考えていきますが、時節柄、暑い最中ですので、特に材料や味づけには気を遣います。聖人のご苦労されたお姿を表したという謂のあるお煮しめと白玉のあずきぜんざいは恒例となっております。

又、4年前から、お斎をバック詰めしてみました。その理由として、

- ①片づけが短時間で済む為、聴聞できる。
- ②食べ切れずに残しても、そのまま持ち帰れる。
- ③時間の都合でお斎の座に着けなかった方も、持ち帰って家族と共に頂くことができる。

以上のような点から器からバックに一部替えてみましたが、とても好評のようです。最近では、お斎の簡略化で「仕出し弁当でも」という声も聞かれますが、「お斎」を通じて、み教えをいただきながら、人と人との温かなご縁の輪が広がってほしいものです。



### 編集後記

既成仏教への批判の一つに「お布施」の額やその用途に対する厳しい視点がある。最近のある新聞にお布施、法要等に関する意見が相次いで掲載された。高額なお布施への疑問、葬儀社と寺院との癒着、中身の乏しい法話への批判などなど。中には年回法要は僧侶に頼まず、家族で故人を偲びながら営もうという提案まであった。

ビントはずれの意見もあったが、仏教界の現実を思うとき、一概に無視できないものを感じた。病院から火葬場に直行という「直葬」がじわりと増えているという。社会はこれまでに大きく変わりつつあると思う。

既成仏教の側にいる私たちが、危機意識をもって現実に向き合い、変革していけるのか。歴史的な正念場に立たされている、と思うのだが……